

奥能登原木しいたけ 「のとてまり」・「のと115」だより

令和3年度第4号
(通巻25号)
令和3年9月1日発行

<発行者> 奥能登原木しいたけ活性化協議会、石川県農林総合研究センター

しいたけの芽が形成される9月末ごろからは散水を行い、よいほだ木作りをしましょう！！

今年の8月は10日頃から前線が停滞した影響で雨が多く、気温も低い状況でした。これはシイタケ菌の成長にとっては高温による影響が少なくよい傾向です。気象庁の3カ月予報では、9月～11月は気温、降水量ともほぼ平年並みが予想されています。**9月末頃から11月上旬にかけてはしいたけの芽が形成される大事な時期**です。ほだ木の乾燥によりしいたけ菌にダメージを与え、不作とならないよう**散水管理**をしましょう。

1. 1年ほだ

発泡栓の内側に形成される芽が乾燥しない程度に散水してください。**9月末からは1日置きに1時間程度散水**を行います。雨の日は、ほだ木がしっかりと濡れたら散水の必要はありません。気温と降水量によりますが**11月下旬まで**続けます。

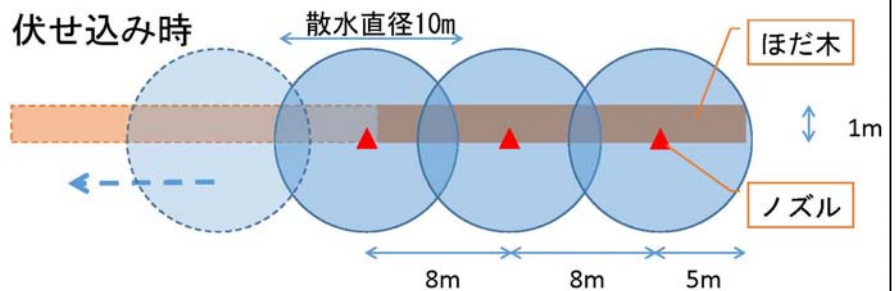
9月末からは発泡栓の下にしいたけの原基(しいたけの芽のもと)が作られる大事な時期なので、高温や乾燥にならないよう管理しましょう



2. 2年ほだ以降

ほだ木が古くなるほど分解が進み乾燥しやすくなります。できるだけたくさん水を撒いてください。

1年ほだの場合より多い頻度、時間で水をまくことが望まれます。



3. 散水ノズルの設置

ほだ木500(1列)～1,000本(2列)程度ならノズル3基で十分です。ノズルは、ほだ木を濡らすのに効果的な**広範囲タイプ**を用います。

【参考】タンクの大きさと散水量、時間

スプリンクラー	1基当り	10基当り	水タンク1回あたりの作動時間(10基当り)		
	水量L/分	水量L/分	500Lの場合 (実質450L)	1,000Lの場合 (実質950L)	1,500Lの場合 (実質1,450L)
広範囲タイプ	2.9L/分	29L/分	15分	32分	50分
霧タイプ	2.2L/分	22L/分	20分	43分	65分